

教 育 長 様

研究コース	
B グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
742694	
選定番号	241

代表者 校園名： 大阪市立白鷺中学校
 校園長名： 進藤 文代
 電 話： 06 (6713) 0500
 事務職員名： 森 太一
 申請者 校園名： 大阪市立白鷺中学校
 職名・名前： 教諭 泉 和樹
 電 話： 06 (6713) 0500

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	「生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造」 ～大阪市スマートサミット開催 生徒会で考えるネット依存～			
3	研究目的	<p>○新型コロナウイルス感染症のため、この2年間、全国的に学級休業やオンライン授業の普及により、子どもたちのスマホへの依存性が高くなっていることが統計的に表れている。特に大阪市は、4時間以上使用する生徒の割合が全国平均を大きく上回り、スマホ依存防止が近々の問題である。大阪市教育委員会、大阪府警、大阪市PTA協議会と連携し、大阪市スマートサミットを開催する。全市生徒会でネット依存の問題点や解決法、家庭でのスマホのルール作りを生徒が主体的に考える。</p> <p>○全市生徒会と今年度は小学校児童会連携し、話し合ったことを、全市中学校に発信し大阪市の子どもたちの情報モラル意識を高め、スマホに関するトラブル未然防止を図る。</p> <p>○全国特別活動研究協議会に参加し、全国のネット依存に対する生徒会、学校の取り組みを学び、研究成果を全市研究発表会で発信し、全市生徒会担当、小学校児童会担当者の指導力向上を図る。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 9.5ポイント）</p> <p>大阪市スマートサミット開催に向けて4月より大阪市教育委員会と連携し準備を進めた。8月末開催の大阪市教育研究会ブロック研究発表会において生徒会交流会を開催し、各校のスマホ依存防止の取り組みとスマホ依存防止ルールについて発表し代表校8校を決定した。今年度は対面で開催することができた。78校の学校が参加しスマホ依存防止劇、スマートルール作成、アンケート実施や啓発ビデオなど活動が報告された。11月12日（土）大阪市スマートサミットを西成区民センターで大阪市PTA協議会、西成区PTA協議会の協力のもと、全市生徒会参加を呼びかけ開催された。第一部は、代表校8校による報告と小学校3校のビデオレターの形で参加した。大阪府警からスマホに関する犯罪についても報告された。後半は、参加生徒によりがスマホ依存防止ルールについて、熱心な討議が行われた。兵庫県立大学准教授竹内 和雄先生にご助言いただきスマホ依存防止について生徒の問題意識がさらに深められた。生徒が主体的にスマホ依存という問題に取り組みルールについて討議する中で主体的、対話的で深い学びの実践に結び付いた。大阪市スマートサミットの成果として、スマホ依存防止ルールの提言が作成された。全市小中学校に広めるためポスター、報告書を作成し配布することも決定した。2月上旬に研究の成果として、全市中学校にサミット報告書とサミットで作成されたスマホ依存防止ルールポスターを、全小学校にポスターを配付しスマホ依存防止について全小中学校に発信し周知した。全国特別活動研究協議会東京大会1日目は、文部科学省初等中学校教育局視学官安部 恒子先生ご講演「未来に向け新たな価値を生み出していく力を育む特別活動」を拝聴し、未来を支える4つの人材像や急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力「あらゆる他者を価値ある存在として尊重」「多様な人々との協働」「豊かな人生を切り拓く」「持続可能な社会の創り手」これら的能力を育むためには「新学習指導要領の着実な実施とICT活用が必要なことなどを学んできた。2日目は東京都大田区立御園中学校の「生徒代表意見交流会による学校や地域社会をよりよくしようとする力を高める生徒会」や愛媛県東温市立川内中学校の「一人一人の思いがより良い学校づくりにつながる生徒総会」など生徒が主体的に取り組む実践報告から学んだ。「がんばる先生支援」（研究支援）グループ研究発表会は、大阪市立中学校教育研究会全市研究発表会と兼ねて行い、43名の参加をいただき、全国大会の報告や令和4年度大阪市スマートサミットの取り組みブロック別生徒会交流会報告をプレゼンテーションし、研究の成果を発信した。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。
		日程 令和 4 年 10 月 12 日 参加者数 約 43 名
		場所 大阪市教育センター
備考 大阪市立教育研究会特別活動部全市研究発表会を兼ねる		
6	成果・課題	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。
		<p>【見込まれる成果 1】 中学校教育研究会特別活動部で先行的に「ネット依存」について研究し、ブロック研究発表会特別活動部で開催される生徒会交流会を通して子どもたちが、ネット依存の問題点、解決方法について考えることができる。</p> <p>《検証方法》 生徒会交流会後のアンケートで、「ネット依存について考えることができた」「問題の解決方法を話し合うことができた」の肯定的回答が90%以上になる。</p>
		<p>〔検証結果と考察〕 生徒会交流会後のアンケートで、「ネット依存について考えることができた」100%、「問題の解決方法を話し合うことができた」の肯定的回答が共に92%以上となり90%を超えることができた。ネット依存はどの中学校でも問題だと考えられており、多くの学校でスマホ依存を防ぐために生徒会が主体的に考え方行動を起こしている。今後もサミットを続けることにより、スマホ依存を生徒自ら解決に向けて取り組むことが期待される。</p>
		<p>【見込まれる成果 2】 大阪市スマホサミットを通して、ネット依存の問題点、解決方法について考え、スマホのルールづくりについて生徒が考えることができる。</p> <p>《検証方法》 ・大阪市スマホサミット後のアンケートで、「ネット依存について考えることができた」「問題の解決方法を話し合うことができた」「スマホのルールを考えた」の肯定的回答が90%以上になる。</p>
		<p>〔検証結果と考察〕 大阪市スマホサミット後のアンケートで、「スマホ依存について考えることができた」「問題の解決方法を話し合うことができた」「スマホのルールを考えた」の肯定的回答が100%となり、目標を達成することができた。今年は、全市生徒会に参加を呼びかけ生徒・教職員を合わせて219名の参加となった。参加生徒が主体的にスマホ依存防止ルールについて考え、積極的に討議したことが検証される。また、有識者や大阪市PTA協議会、大阪府警の犯罪の参加により、多面的にスマホ依存について検証することができた。</p>
		<p>【見込まれる成果 3】 全市研究発表会で、全国特別活動研究協議大会 東京大会の研究成果を報告することで、全市生徒会担当の生徒会活動への意識や意欲向上を図る。</p> <p>《検証方法》 大阪市中学校教育研究会特別活動部全市研究発表会参加者アンケートで、「生徒会活動を進める上で、参考になった。」の肯定的回答が85%以上になる。</p>
		<p>〔検証結果と考察〕 大阪市立中学校教育研究会全市研究会参加者アンケートで「生徒会活動を進めるうえで、参考になった」の肯定的回答が100%と、目標の85%を上回ることができた。生徒会担当は経験の浅い若手教員が担うことが多く、モデルとなる生徒会活動を学びたいという教員が多い。今回の発表により、全市生徒会活動指導者のスキルアップが図られた。</p>

6	<p>【見込まれる成果4】 大阪市スマホサミットで、生徒自らネット依存防止及びスマホのルールを考え、ポスターを作成し全市に発信する。また、全市生徒会が生徒会交流会及びサミットで話し合ってきた内容を、大阪市スマホサミット冊子を作成し全市に配布することにより、スマホ依存啓発を図る。</p> <p>〔検証方法〕</p> <ul style="list-style-type: none">・作成したネット依存啓発ポスターを作成したものを配布し、全市中学校で掲示されているかアンケート集約し、ポスター掲示が80%以上となる。・大阪市スマホサミットに向けて、生徒会がスマホのルールについて考えた学校が70%以上となる。 <p>〔検証結果と考察〕 作成したスマホ依存啓発ポスターを学校で掲示している学校は2月現在全市中学校で99.7%、また、大阪市スマホサミットに向けて参加校は、100%スマホ依存防止ルールについて考え、発表していた。大阪市スマホサミットは、前半は代表校のスマホ依存防止報告、後半はスマホ依存防止ルールについて参加生徒全員で討議し、生徒が主体的にスマホ依存防止問題に取り組むことができた。「人間関係」「時間」「危険」の視点からスマホ依存ルールの提言を全市に発信した。提言を更に全市に広めるため、報告書、啓発ポスターの作成を行い全市小中学校に発信し、スマホ依存啓発に大きな成果を上げた。</p> <p>【見込まれる成果5】 大阪市教育委員会、大阪市立小学校教育研究会特別活動部、大阪市PTA協議会、大阪府警と連携した大阪市スマホサミットの開催</p> <p>〔検証方法〕</p> <p>○研究発表の日程・場所 11月26日（土）予定 阿倍野区民センター、全校生徒会代表参加（新型コロナウイルスの感染状況により、一部オンライン形式も検討）</p> <p>〔検証結果と考察〕 大阪市スマホサミットを11月12日（土）、13時より西成区民センターで全市生徒会に参加を呼びかけ開催した。参加は65校、生徒131名、教職員88名、大阪市教育委員会事務局等より16名（リモート視聴含む）の合計242名の参加があった。大阪府警、大阪市PTA協議会にもご参加いただいた。また、有識者として兵庫県立大学准教授 竹内 和雄先生にもオンラインでご参加いただき研究を深めることができた。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。 今年度はコロナウイルス感染状況が落ち着いている時期だったので、ブロック別生徒会交流会、大阪市スマホミサミット共に対面で行うことができた。特に、大阪市スマホミサミットは初めて全市生徒会に参加を呼びかけ、西成区民センターで開催することができた。代表校のパワーポイントを活用した発表は、どの学校も堂々とした素晴らしい発表で参加生徒は大きな刺激を受けたようである。後半の参加生徒によるスマホ依存防止ルール作成についての討議では、どのグループも身を乗り出し、熱心に討議する姿が見られた。生徒が主体的にスマホ依存という問題に向きあい、懸命にどのようにすれば解決できるか各校等身大の仲間の姿を目に浮かべて意見を出し合った。まさに、スマホ依存問題を主体的に解決するよう試み、「スマホとかしこくつきあうにはどうすればいいか」という新たな価値観を生み出そうとしていたことは大きな成果である。今後の課題は、スマホ依存防止ルールを各校が生徒会が保護者と連携し作成し、更に主体的にこの問題解決に向けて取り組むことが必要である。</p> <p>《代表校園長の総評》 今年度は初めて、スマホサミットを対面で西成区民センターで全市中学校生徒会に参加を呼びかけ開催することができた。ビデオ参加ではあるが、大阪市小学校教育研究会特別活動のご協力を得てすすめることができた。これからも小教研特別活動と連携しながら、大阪市の子どもたちが主体的にスマホ依存防止に取り組む研究を進めていきたい。また、サミットを開催し参加した生徒会が自校で全校生徒に発信することにより、昨年度よりスマホを4時間以上使用する生徒の減少がみられる傾向がある。更にこの研究を進め、子どもたちが問題解決に向けて主体的に考え、未来を切り開く力の構築する研究を推進したい。</p>
---	--